

藤田 潤 ガラス新作展

— いのちの輝き —



1

火の器

H14.5×W33.0×D31.0cm

ごあいさつ

このたび高島屋では東京日本橋、京都、高崎の各店におきまして「藤田潤ガラス新作品展 一いのちの輝き一」を開催させていただきます。

藤田先生は1951年東京都に生まれ、学習院大学文学部哲学科卒業後、文化勲章受章者で世界的ガラス作家の父・藤田喬平先生の指導のもとガラス工芸の道に進まれました。その後、自身の表現を模索しながら、風、雲、水といった自然界の気韻や生命の尊さをテーマに、温かみのある色彩と優美な造形による独自のスタイルを確立されます。近年はガラスと呼応する色彩のちからをテーマに、吹きガラスならではの透明感のある美しさに加え、鮮やかで煌びやかな色彩が加わった新たな世界を切り開いておられます。

ガラスという、透明でありながらもずしりとした重量があり、冷たいように見えながら作品によっては温かくも感じる、不思議で魅力的な素材と、先生ご自身の感受性や巧緻な技術が結集した作品は詩趣にあふれ、心安らぐ気持ちをもたらします。

今展では、新たな造形に挑まれた器や、近年精力的に取り組んでおられる鮮やかな色彩と柔らかな表情が魅力の野菜や果物のオブジェなど、渾身の新作を発表いただきます。是非この機会にご高覧くださいませようご案内申し上げます。

高島屋美術部



ごあいさつ

この度、東京日本橋、京都、高崎の高島屋各店で新作展を開催するのはこびとになりました。

もう30年程前になりますが、詩人の松永伍一先生が個展会場に来てくださり、「あなたの作品にはいのちの輝きのようなものを感じるね」と仰ってくれました。風の動きや水の流れをガラスに託すことで、ひとの心に触れるものを作りたいと願っていた私にとっては本意を得た気持ちでした。

この3年間は自身の内も外も目まぐるしい変化があり、制作も発表も思うに任せない日々が続きました。十分な作品ではありませんが、ご高覧いただければ幸いです。

藤田 潤

【日本橋展】2023年5月17日(水)→22日(月) 高島屋日本橋店本館6階 美術画廊

【京都展】2023年6月14日(水)→19日(月) 高島屋京都店6階 美術画廊

【高崎展】2023年6月28日(水)→7月3日(月) 高島屋高崎店5階 アートギャラリー



12 零
H26.6×W23.5×D15.0cm
[上部寸法]
H20.7×W21.0×D12.7cm

略歴

1951 東京生まれ
1975 学習院大学文学部哲学科卒業
1984 個展(高島屋/東京、大阪)以後定期開催
1986 個展(高島屋/京都)以後定期開催
1992 個展(高崎高島屋)以後定期開催
1996 「'96日本のガラス展」にてプリチストン美術館賞
2000 「KOGANEZAKI・器のかたち・国際ガラス展」にて優秀賞
2001 「国際ガラス展・金沢2001」にて金賞
2004 「九つの音色 IN ソウル展」(日本大使館広報文化院)
2006 「九つの音色 IN 北京展」(北京 清華大学美術学院)
2007 「藤田潤ガラス新作展—ヴェニス¹の風・雲・水」(高島屋/東京)
2008 文化庁長官表彰

2009 「藤田潤ガラス新作展—時間^とを込める^宮」(高島屋/東京)
2011 「藤田喬平・藤田潤『色ガラスの美』展」(黄金崎クリスタルパーク)
2013 「藤田潤ガラス新作展—色彩のちから」(高島屋/東京、京都)
2015 「藤田潤ガラス新作展—water color—」(高島屋/東京、京都)
2016 「市川市民芸術文化賞記念 藤田潤展」(市川市芳澤ガーデンギャラリー)
2017 「藤田潤ガラス新作展—光の彩^{ひかり}」(高島屋/東京、京都)
2019 「藤田潤ガラス新作展—Brilliant Color—」(高島屋/東京、京都)
2023 「藤田潤ガラス新作展—いのちの輝き—」(高島屋/東京、京都、高崎)

[収蔵] 国立工芸館 横浜美術館 千葉県立美術館 富山市ガラス美術館
石川県能登島ガラス美術館 黄金崎クリスタルパーク 藤田喬平ガラス美術館 他

藤田 潤 ガラス新作展 —いのちの輝き—

編集・発行/高島屋美術部©2023 撮影/タケミアートフォトス 制作/ニューカラー写真印刷(株)

 **Takashimaya**